

# 余野川ダム計画に関する 調査検討の説明状況

平成16年7月11日

猪名川総合開発工事事務所

## 余野川ダム計画に関する調査検討の説明状況

項 目	これまで	今回	次回以降	流域委員会・一般住民からの意見	記載箇所
1) 代替案に関して、さらに詳細な検討を行う。	-	-	-		
1)-1 狭窄部上流の浸水被害対策の検討	-	-	-		
対象洪水規模の検討				<p>「軽減」と「解消」には大きな開きがある。厳密に言えば、浸水被害の「解消」は不可能であり、われわれが実現できるのは「軽減」でしかない。対象期間での達成を重視するならば、目標とはいえ、軽減とするのがより適切である。</p> <p>計画高水として用いられる確率洪水は、その算定に用いられる計画規模(年超過確率)・引き伸ばし率・カバー率のそれぞれに曖昧さがあり、過大であるとの批判がある。一方、既往最大洪水を用いると、曖昧さは解消されるが、偶然性に支配され、社会的重要度などが無視される。計画高水としてこれら2種の洪水の特性ならびに当対象とする洪水規模の採択理由を説明する必要がある。</p> <p>「多田地区の浸水被害の軽減」の計画高水として「既往最大規模の洪水」が採用されているが、猪名川の既往最大洪水の規模は異常に大きく、年超過確率に換算すれば数千年に相当する。したがって、既往最大規模の洪水を計画高水とすることは、計画の達成という観点からみて実現性に問題があり、数十年規模の確率洪水を計画対象とせざるをえない。</p> <p>昭和35年型の降雨確率(約1/4000)およびその時間降雨パターン(2山型)を考えた場合、その算定方式を含めて再検討が必要ではないか。このままであれば、他の狭窄部と比べて過大な目標降雨レベルではないかと考える。</p> <p>浸水被害の解消の目標とする降雨規模については、確率降雨をもとにした降雨レベルも同時に勘案し、引き続き精査を行い、住民の意見等も考慮して設定することが望ましい。また、さまざまな降雨のパターンを考慮してきめ細かい対策を検討するべきである。</p> <p>「多田地区の浸水被害の軽減」の目標(既往最大規模の洪水)の妥当性および実現可能性はあるか。</p>	意見書 意見書 意見書 意見書 意見書
狭窄部上流の浸水被害対策案の検討	-	-	-	<p>当面の被害軽減対策として挙げられた「既設ダムの治水強化」と「流域内貯留施設の整備」についてである。これらの対策に「事業中のダム」が関連する場合には、それらについての調査・検討が先行するため、その結論によって対策の検討内容を変える必要がある。</p>	意見書
-1 各対策案の評価	-	-	-	<p>「一庫ダムの治水機能強化」により、多田地区の浸水被害はある程度緩和されるものの、一庫ダムは猪名川の支川一庫大路次川に設置されており、ダムの集水面積とほぼ同じ面積をもつ集水域外から流出する流量への抑制機能はなく、抜本的解決にはならない。</p> <p>ハード対策については、対象地域の社会的・環境的影響また費用対効果を、現況の浸透・貯留能力の維持・促進また法整備対策等とあわせて比較精査し、住民意見の聴取を十分に行い、慎重に検討して頂きたい。</p>	意見書 意見書
・一庫ダムの放流操作変更案					
・一庫ダムの予備放流案					
・一庫ダムの堆砂容量の活用案					
・一庫ダムの利水容量の振り替え案				<p>「利水容量の振替」については、日吉ダム・大戸川ダム間の利水容量の振替に見られたように、距離が離れたうえに集水面積も異なるダム間で、例えば利水容量が同じであっても、同等の利水機能の振替となるか不明確である。</p> <p>余野川ダムの集水面積は小さく、期待される利水容量が渇水時に確保できるのかとの疑問も残る。</p>	意見書 意見書
・一庫ダムの高上げ案					
・バイパストンネル案					
・分水路設置案					
・既設調節池の機能向上案					

## 余野川ダム計画に関する調査検討の説明状況

項 目			これまで	今回	次回以降	流域委員会・一般住民からの意見	記載箇所
		・新たな遊水地案				多田地区において現在市街化調整区域に指定されている多田地区右岸に遊水地を設け、このこと によって左岸の川西第二の商業地区の浸水の軽減をはかる方法も一つの選択肢として検討して頂き たい。また、当地区の浸水は、東側台地の小規模住宅開発地区からの雨水の流出による影響も考え られるので、この地区での「都市型あるいは内水型水害」への対策とその効果を検討して頂きたい。 これらの例を含め、流域全体を視野に入れた「小規模なハード面からの具体策」の充実が望まれる。	意見書
		・森林保水機能案				流域内保水能力、貯留機能の強化を行うと同時に、現況の猪名川流域の浸透、貯留能力を維持 する方策(森林や農地の維持および開発の防止、ため池の維持等)についても調査・検討を続けて頂 きたい。	意見書
		・水田の活用案				都市空間に旧来の農業空間がかろうじて残されている猪名川の地域特性を生かして、休耕田・現 農地・ため池等についても、その雨水浸透能力および貯留能力を精査し、現況の浸透・貯留能力を維 持する方策についても対策を講じるべきである。	意見書
		・家屋の耐水化案、透水性舗装案				多田地区の強度浸水地域に関しては、「移転」・「耐洪水建築」・「被害補償」・「土地利用の制限」な どの法整備による対策も並行して講じておく必要がある。	意見書
		・ため池の活用案				都市空間に旧来の農業空間がかろうじて残されている猪名川の地域特性を生かして、休耕田・現 農地・ため池等についても、その雨水浸透能力および貯留能力を精査し、現況の浸透・貯留能力を維 持する方策についても対策を講じるべきである。	意見書
		・校庭貯留案				家庭における雨水マス、公共施設における貯留機能の整備等、個々の施策の効果がたとえ小さい ものであっても、流域全体の治水・利水双方の安全度を高めるきめ細かな施策を再度調査・検討して 頂きたい。	意見書
		・雨水浸透ます設置案				家庭における雨水マス、公共施設における貯留機能の整備等、個々の施策の効果がたとえ小さい ものであっても、流域全体の治水・利水双方の安全度を高めるきめ細かな施策を再度調査・検討して 頂きたい。	意見書
		-2 複合案の検討					
		1)-2 狭窄部開削の検討				狭窄部「銀橋」は、提言の趣旨に従い当面の間、開削しないという方針は堅持して頂きたい。しかし 下流の堤防強化が完了し、下流部の治水能力強化が進展した場合には、狭窄部を段階的に掘削す ることを将来再検討する余地は残して頂きたい。  多田地区の浸水被害軽減効果は、抜本的には狭窄部の開削が有効である。	意見書  対話集会
		狭窄部開削の条件					
		狭窄部を開削した場合の効果					
		狭窄部を開削した場合の下流への影響					
		狭窄部開削を含む対策案の検討					
		1)-3 下流の治水効果の検討				ダムの流量調節機能が発揮されるのは、集水域からの出水に対してのみであり、また計画降雨を 超える場合には機能が低下する。どのような大洪水に対しても被害を回避・軽減しようとする場合、ダ ム建設と堤防強化の優位性を比較する必要がある。  「下流部の浸水被害の軽減」については、余野川ダムの集水面積の大きさを考慮した浸水被害の 軽減度を明らかにする必要がある。  下流域の浸水被害想定について、被害額が大きすぎるのではないかと。	意見書  意見書  対話集会

## 余野川ダム計画に関する調査検討の説明状況

項 目	これまで	今回	次回以降	流域委員会・一般住民からの意見	記載箇所
2) 余野川ダムの貯水池規模の見直し並びに余野川ダム及び一庫ダムの貯水池運用の変更に伴う貯水池周辺やダム下流に与える影響をはじめ、環境等の諸調査を行う。	-	-	-	<p>地域住民がどのような環境・景観を望んでいるのかの意見を総合し、「残す」あるいは「創造する」べき「目標生態系」を設定し、その目標実現に資するモニタリングにある程度絞るべきである。希少種・特定種のみが保全の目標ではないが、例えば余野川ダム計画地に隣接するオオタカ生息区域は、保全されるべき流域の貴重な“自然”の一つであって、その保全に万全を期して頂きたい。</p> <p>環境影響評価については、住民等にも積極的情報提供を求め、住民参加のもと評価・検討して頂きたい。</p> <p>建設地周辺の自然環境のあり方について、住民の協働、参加のもとでの明確化。</p> <p>環境への重大な影響が認められた場合にどのような対応を行うのか。</p> <p>環境調査の実施に際しては、学識経験者の指導と助言のもとに調査項目・調査方法などを定め、十分に調査する必要がある。調査結果については公開が原則であり、結果の評価に際しては、地元学識経験者も加えて行う必要がある。</p> <p>豊かな自然の喪失、湖水の悪化等の環境悪化は復元不可能な社会的損失である。</p>	意見書 意見書 意見書 意見書 対話集会
2)-1 余野川ダムの貯水池及び貯水池周辺の環境等の検討(調査、予測、評価、対策の検討)	-	-	-	ダムの容量に比べて集水面積が小さく、ダム湖水の回転率が小さいうに、ダム湖周辺には新たな大規模な住宅開発が予定されており、水質悪化が懸念される。	意見書
水質	-	-	-		
-1 水温					
-2 濁度					
-3 富栄養化					
生物の生息・生育環境	-	-	-		
-1 重要種					
-2 その他(上位性・典型性)					
2)-2 余野川ダム下流河川の環境等の検討(調査、予測、評価、対策の検討)	-	-	-		
水質					
生物の生息・生育環境					
2)-3 一庫ダムの貯水池及び貯水池周辺の環境等の検討(調査、予測、評価、対策の検討)					
2)-4 一庫ダム下流河川の環境等の検討(調査、予測、評価、対策の検討)					
3) 土砂移動の連続性を確保する方策の検討を行う。	-	-	-	<p>動的な安定河道の実現をめざした検討を早急に開始する必要がある。</p> <p>検討に際しては、さらに以下の事項についても調査・検討する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダムによる土砂供給の分断が琵琶湖や大阪湾の底質に与える影響</li> <li>・土砂を人為的に取り出して排出する場合の取り出し法および排出先の選定</li> <li>・偏った粒径の土砂のみ選択排出される可能性</li> </ul>	意見書
3)-1 土砂移動の連続性が遮断されることによる影響の検討					
3)-2 土砂移動の遮断を緩和(解消)する方策の検討					
4) 利水について、水需要の精査確認を行う。	-	-	-	<p>水需要は水利権更新の際に精査確認するとしているが、本来は常時行うべきものであり、とくに現在事業中の各ダムに関わるものは早急に実施するべきである。</p> <p>基礎原案では、利水安全度評価の低下により、新たな水資源開発が必要としているが、地球規模の気候変動による降雨量の変動の増大が渇水の危険性を高める恐れがあるという科学的根拠を示す必要がある。</p>	意見書 意見書
4)-1 各利水者の水需要の精査確認					
4)-2 水系全体での包括的整理(維持流量、利水安全度、渇水調整等)					

「 」は調査検討の完了後の説明。  
「 」は調査検討の途上での説明。  
「-」はさらに小分類がある調査検討項目。